

平成30年度児童発達支援自己評価結果(事業所)

公表：平成31年3月25日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容や改善目標
環境や体制整備	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	○		・指定基準は満たしているが、母子通園のため出席数が定員を超えて多いときはプレイルームや保育室は手狭に感じる。活動内容によってスペースを効率よく使用できるように工夫する必要がある。
	職員の配置数は適切であるか。	○		・指定基準は満たしているが、時間帯や職員の個別対応等により不足感を感じることもある。
	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。		○	・本体建物は築年数が30年以上経過しており、リハビリ棟は50年以上経過しているため障害特性への配慮やバリアフリー化、補装具等の収納が不十分であるため、建て替えや大規模改修を計画している。
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・掃除時間を多めに取り清潔に心がけているが、建物が古く清潔さにかけてしまう。
業務改善	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		
	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	○		
	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	○		
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・第三者評価は受けていない。
	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	○		・法人内外の多くの研修に参加しているが、さらに実践的な研修に参加して専門性を高めていく。
適切な支援の提供	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		
	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	○		・発達障害系の子どもの利用が増えているので、対応できるように支援内容を工夫していく。
	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		
	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	○		
	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		

	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか。	○	・保育とリハビリスタッフ間で情報共有し互いの工夫を取り入れている。同じ活動であっても内容や展開方法を変えたり、本人の興味や関心を考慮している。
適切な支援の提供	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適時組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか。	○	
	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	○	
	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	○	
	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	
	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	○	
関係機関や保護者との連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	○	
	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか。	○	
	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか。	○	
	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか。	○	・保護者から医療情報等を確認しているが、医療機関との連携体制は十分ではないかもしれない。
	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	・卒園後アフター支援や療育支援事業で共有して支援している。
	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	・卒園後アフター支援や療育支援事業で共有して支援している。
	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	○	・市県内および東海地区の児童発達支援事業所と情報共有を図っている。
	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。	○	・地域の情報を伝えて、保育園等を考えている人に対して園庭解放参加等をすすめている。園として他の園と交流する機会は設けていないので、隣接保育園との交流について、効果的な活動を検討したい。
	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○	・豊橋市および周辺市の協議会等に参加し、会長等の役割も担っている。
	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	
保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか。	○		
重要事項説明書をもとに運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		

保護者への説明責任等	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		
	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○		・定期的な面談や保護者勉強会を実施したり、随時話を聞くようになっている。
	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	○		
	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		
	定期的におたより等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		
	個人情報の取扱いに十分注意しているか。	○		
	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		
非常時等の対応	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・法人(福祉まつり)としては行っているが事業所単独は行っていない。地域貢献事業は開催を検討したい。
	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・防犯訓練、嘔吐物の処理、心肺蘇生等は園内および法人内で訓練している。マニュアルは一部作成中。
	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っているか。	○		
	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		・緊急時用の個人票を作成して対応している。
	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・入園時に医師の指示書や聞き取り等で確認し、療育中も常に保護者と確認している。
	アクシデント・インシデント事例集を作成して事業所内で共有しているか。	○		
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・順次研修に参加して、内容は資料などで共有できるようにしているが、全体に十分に伝わるようにするのが課題でもある。
どのような場合にやむを得ず身体的拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		・契約書に定めてあり母子通園では身体拘束を行うケースはないが、児童発達支援計画書の記載方法等は検討したい。	
チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	